

長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより

第 136 号 (25 年度)

第 63 回 長野県図書館大会を終えて

大北支部代表 池田町立池田小学校 中村 豊

今回の長野県図書館大会は、大田市文化会館を中心会場として開催しました。

移動のストレスをなくすことを考慮して、文化会館の近くですべての分科会を行いました。そのために、小中学校部会分科会の中で、窮屈な会場や隣の分科会の声が聞こえる会場も出ました。その点は迷惑をおかけしました。しかし、分科会の内容がよく、どの分科会も「明日からの運営に役に立つ。」「他の学校の実践を学ぶことができて良かった。」などと感想をいただきました。また、読み聞かせや発表を演じた分科会では広い会場が確保でき、のびのびと発表することができました。



基調講演を引き受けてくださった井上一郎先生のご講演はとても好評でした。作家や俳優などと違って、知名度が低いので前評判はいまいちでしたが、講演後の反響は大きく、講演資料や講演記録を望む声が多くありました。できることならば全学校に配布したいのですが、著作権の問題を大事にされる井上先生の思いを受け、公表できないことをお許しください。言語活動をどのように育て、どのように生かしていくかを具体的にお話しされ、先生御自身が客席に近づいて問いかける「場を大事にされた講演会」となりました。ちなみに井上先生はパワーポイントは講演会で使わないそうです。それに頼りすぎてしまい、その場に適した講演ができないからだそうです。質問をして会場からの答えを受け、それに答える講演会は確かに分かりやすかったと思います。

支部小学校部会では次のような方向で取り組みました。10月の忙しい学校職員に負担をかけないように学校施設をできる限り使用せず、公共の施設設備を利用する。会場案内は PTA の皆さんに呼びかけ、近くの所に出て案内していただく。参加者の皆さんにとって分かりやすい大会になるように、連絡をこまめに取り合う。ということに徹しました。

大北支部の中では、実行委員以外の図書館司書の先生方や司書教諭の皆さんが、それぞれにこの大会に思いを寄せ、何らかの形でこの大会の協力してくれたのがとてもありがたかったです。強制しないのに自ら参加してくれたり、機器の様子を心配してくれたり、会場の設営に協力してく



れたり、心配りをつくしてくださりました。そういった意味で、大北支部の盛り上がりができたと思います。

大会運営で中心となって活躍された大町図書館職員の皆様は、本当に細かな心づくしと工夫をしてくださいました。連絡もよく取り合い、おかげで小中部会でも十分な準備ができました。この大会で感じたことは、小中部会と図書館が連絡をいかに取り合うか、そして、お互いがどこまで理解し合うかということが大事だということです。任せきりになると必ず落ち度が出てきます。本大会で図書館との距離がさらに狭まった感じがしました。

運営、施設の面で指導してくださった大町北安曇の教育委員会・行政の皆様を初めとし、陰から協力をしてくださった関係諸団体の皆様、県下各地から参集してくださった参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

第 63 回長野県図書館大会に参加して

大町市立大町北小学校 小野 美由紀

「地元大町市での開催ということで、図書館大会に参加させていただきました。

午前の基調講演は、井上一郎氏に学校図書館のあり方や役割、調べ学習の仕方、教科との連携などのお話をお聴きしました。

図書館関係者は本を読ませることに重点を置き、先生方は読解力・説明力に重点を置いている、その互いの考え方の違いが問題であり、課題であると学びました。日本人は、「～のわけを説明しなさい」という設問になると正解率が下がるそうです。国語だけではなく全ての教科に読解力や説明力が必要なはずで、学校図書館は読解力・説明力にも気持ちを向け、言語活動・学習の場の起点とならなければいけないのだと改めて感じ、これからできることを少しずつ取り組んでいこうと思いました。

午後は、第 8 分科会「読書指導のあり方」に参加し、上田市立川辺小学校と坂城町立坂城中学校に実践報告をしていただきました。両校ともに児童・生徒が意欲的に読書活動ができるように指導・工夫をされていて、大変参考になりました。また、グループ討議の時間も設けられ、各校の読書指導の様子から悩みに至るまで話し合わせ、様々な立場から意見が得られるよい機会となりました。

地区学校図書館研究会から

北信地区

9月5日 長野市立 徳間小学校 北部中学校

北信地区大会（徳間小会場）に参加して

千曲市立治田小学校 宮川 光代

1年生と6年生のペアで、1年生の選ぶ本を読み聞かせてもらうという授業を去年私も経験し、よさについては安心しておりました。今回はさらに①図書館での貸し借りのし方を正しく学んで自信をもつ

こと ②6年生から読んであげたい本を選定し、準備する という目的が加わっていて、場の設定のよさと同時に可能性を感じ、参考になりました。研究会の持ち方は、本校の日頃行われている形とのことでしたが、大変短い日程の中で、参加者のなるべく大勢からの発言（メモ）、意見の交換のできるよさを感じました。

和田先生のご講演では、人間の核になるもの、恩師との出会い、今にいたるまで残る言葉やエピソードのお話に、今共に過ごしている子どもたちとの時間の大切さを思いながら聞き入っておりました。1～3年生までに本が好きになってしまうと・・・そうするために何ができるかを考えていきたいと思えます。

南信地区

11月15日 豊丘村立 豊丘北小学校 豊丘中学校

南信図書館教育研究会に参加して

阿南町立大下条小学校 熊谷 博子

まず感じたのは、「誕生日図書」のプレゼントを毎年受けられる豊丘村の子どもたちの幸せでした。携わる方々の苦勞や工夫もさることながら、うらやましい限りです。

豊丘北小の2年生の本のおすすめをする姿を参観し、「熱意はしっかり伝わる」実感を、ちいさいおうち書店店長越高一夫さんのブックトークでは、中学生の読書生活の様子がわかるとともに「教え子にも伝えたい」という意欲を、元NHKアナウンサーでことばの杜代表山根基世さんの講演から、ことばの持つ力の感動を体得することができました。

これからも、子どもたちが本と楽しく関わりながら、本の世界を通して、豊かな感性をはぐくんでいけるように、私にできることを試行錯誤していかなければいけないということを、改めて心に刻むことができた一日となりました。

東信地区

11月15日 佐久市立 中佐都小学校 野沢中学校

東信地区学校図書館教育研究会に参加して

立科町立立科小学校 北村 和行

中佐都小学校3年生「食べ物のひみつ教えます」の授業では、よく工夫して作られたマップを手がかりに、それぞれが選んだ食べ物についての情報を図書から拾い出していました。マップの枠の形や位置が、資料とした『すがたをかえる〇〇』シリーズの各ページのレイアウトと一致しており、調べながらその説明の仕方に気付いている子もいて感心しました。調べ学習における教材研究の大切さを改めて教えていただきました。

講演会では、荻谷夏子先生から、「大村はまの読書生活指導——『読書生活』を育てるとのこと——」という演題でお話をお聞きしました。大村はま先生が、そこにいらっしゃるようなご講演でした。心の糧としての情報も本に含まれていることやその子のその時に合わせて本をすすめることなど、読書指導を進める基盤となる自分自身の書への関わりを深めたいと思いました。

第27回北信越地区学校図書館研究大会報告

第27回北信越地区学校図書館研究大会・第28回富山県学校図書館大会 (10月10日～11日)に参加して

小布施町立栗ガ丘小学校 清水 幸子

「読書は無敵大1冊の本から広げる世界～学びの喜び、感動する心の深化と表現力の育成を目指して」という主題で上記の研究大会が行われ、私は二日目の第1分科会「主体的・意欲的な学習活動を支援する利用指導」(小学校)に参加し、発表もしてきました。

①黒部市立石田小学校(小林美喜子先生)では、図書館利用指導計画を年間指導計画上にしっかりと位置づけて学習指導することで学校図書館を積極的に利用するようになるという実践を発表しました。また、毎週木曜日には学校図書館推進委員(地域のボランティアの方、元教員など)が来校し、学校図書館司書教諭や各担任と連絡を取り合っただボイブスしてもらおうというのもよいと思いました。

②富山市立堀川小学校の道下佐和子先生は1年生の担任で、学級に約200冊の本を設置したり子どもたちは机の中にいつも1冊の本をおいたりして、すぐに本を読めるようにしているそうです。また、クラスで月・金曜日に必ず図書館に行くようにし、金曜日に借りた本は週末に家で読んでくれるようにしているというのもいいなと思いました。

③私は「進んで利用したくなる図書館を目指して」の実践を発表しました。4月当初に職員オリエンテーションを行い、児童へのオリエンテーションをどのように行うのか統一したり、図書委員にはカウンター当番の仕事以外に「本の案内人」となっ、本を探すのに困っている人のお手伝いをするよう指導したりしている等の内容でした。

④阿賀野市立水原小学校の永井加代子先生からは、PTAの外部組織である「ボランティア部」について発表がありました。年度当初に、稲作体験の補助、ミシン指導の補助、給食エプロンの修理、読み聞かせなどについて部員を募り登録してもらおうそうです。そして、「読み聞かせ・語りの会」では月1回(年9回)昼休みの時間に三つの会場を用意し、子どもたちは好きな会場に行ってお話を聞くということをしているそうです。

図書館利用の様々な工夫について学ぶことのできた分科会でした。

午後は「越中万葉の世界」と題し、高岡市万葉歴史館の坂本信幸氏より講演がありました。畿内を除き、万葉歌に出てくる地名の一番多いのは富山県だそうです。万葉集の編纂に大きく関わった歌人^{おむもの家持}家持が、天平18年(746年)6月に越中守(高岡市が中心)に任ぜられ、赴任してから5年間、帰京するまで、その風土を歌に残したからだそうです。万葉集には4516首の歌があり、このうち家持の歌であるとわかっているものは473首、そのうち223首がこの越中で詠まれており、そこに家持の部下たちの詠んだものやこの地に伝わる歌などを含み「越中万葉」と称され337首あるそうです。「越中万葉」から①越中の風土②越中の言葉③越中の風俗がわかり、しかも、日時が記された歌が多く具体性があるという点で大変意義があるということをお教えていただき勉強になりました。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第136号
発行日 平成25年12月13日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会 小中学校図書館部会(代表 関間昇)